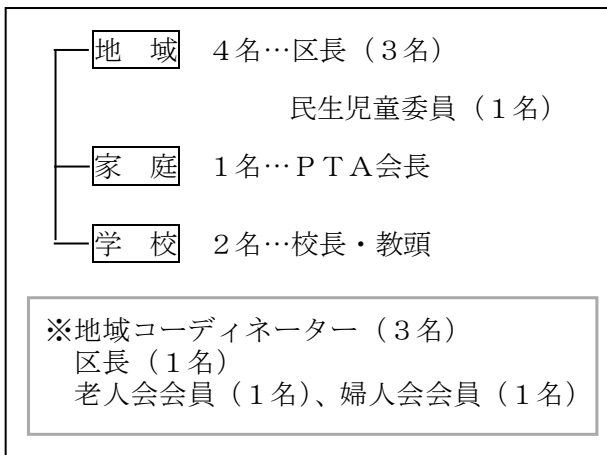


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

※開催回数	年3回
※開催日程	6月17日（月） 12月12日（木） 2月27日（木）
※協議内容	・活動計画および学校経営について ・学校教育活動の経過報告および中間評価 ・学校関係者評価の分析結果と次年度への提言 ・角鹿小中学校開校に向けた準備 ・閉校記念事業計画

(3) 協議会における成果と課題

令和3年度の角鹿小中学校開校に向けた準備と令和2年度末の赤崎小学校閉校に伴う記念事業について話し合いを行った。特に、閉校記念事業については、地域、保護者の関わりが大きいと、今後も地域、家庭、学校が連携をとりながら計画的に進めていきたい。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の歴史や伝承資産調査、地域行事への参画、人との関わりの中で、地域の魅力や課題を見つけ、魅力の発信と課題解決を行うことで、地域への誇りと愛着を深め、ふるさとの将来について主体的に考え、行動しようとする児童の育成を図る。

今年は「敦賀港120年」「奥のほそ道330年」の記念の年であることから、特にそれらに関連する杉原千畝と松尾芭蕉を取り上げ、赤崎地区から敦賀市、さらには他市へと範囲を広げた調査・探究活動を行い、ふるさとの魅力を深堀する。

(2) 活動の実際

① 「杉原千畝の生き方と人道の港敦賀」について調査・探究・発信（5・6学年）

敦賀港が開港120年を迎えることから、敦賀港を見学し、その歴史や役割について調べ学習を行った。また、敦賀港が「人道の港」と呼ばれることに注目し、「人道の港 敦賀ムゼウム」の見学を通して、約6,000人のユダヤ難民に「命のビザ」を発給した杉原千畝の偉業や敦賀港に上陸したユダヤ難民を温かく迎え入れた敦賀市民の行動と想いについてまとめ、オープンスクールで地域の方や保護者に向けて発表した。



この学習を通して、児童は敦賀市民の優しさや思いやりについて知り、それを誇りに感じるとともに、命の大切さについても考えることができた。また、人道の港としての敦賀港の役割についても知ることができた。

②地域の伝統行事への参加（3～6学年）

地域の伝統行事（赤崎獅子舞・山の神講）の歴史等について学習し、見学、参加した。児童は話を聞くだけでなく、実際に見学、参加することにより地域への理解と愛着を深めるとともに、地域の方の願いを知ることができた。

③敦賀の街づくりについて調査・探究・発信（5・6学年）

北陸新幹線の敦賀開業を見据えて、「敦賀市を今以上に魅力ある街にするには」というテーマで、敦賀駅と商店街の今後について提案する学習に取り組んだ。

まず、長浜市をモデル的な街と考え、長浜駅と黒壁エリアの調査を行った。その後、敦賀駅と商店街の調査を行った。歩いて調査したことで、それぞれ良いところと課題を発見することができた。

オープンスクールでは、長浜の良いところを参考にして敦賀の街をより良くするための提案を行った。発表後には地域の方や保護者と意見交換を行い、児童にとってふるさと敦賀を見直す良い学習となった。



（3）地域コーディネーターの活動概要

- ・地域の伝統行事への参加について、関係者との連絡・調整
- ・オープンスクール（赤崎っ子スクール）の地域への発信、準備・運営補助

（4）特に工夫した事項

- ・敦賀港の歴史や杉原千畝の偉業、地域の伝統行事、松尾芭蕉の足跡など「過去から学ぶ」活動で発見した敦賀の魅力を、敦賀の街づくりなど「未来を考える」活動に活かすことにより、児童は地域への誇りと愛着を深め、ふるさととの将来について考え行動しようとする意識を高めることができた。
- ・オープンスクール（赤崎っ子スクール）を児童の活動の成果を発信する場と位置づけ、地区の全戸へ配布する学校だよりやホームページで積極的に案内し、保護者・地域の方との交流を通して、家庭・地域・学校が一体となり、より良い児童の育成に取り組むことができた。

（5）成果と課題

杉原千畝や「人道の港 敦賀ムゼウム」について、児童は多少の知識を持っていたが、「疑問・調査・まとめ」という学習を繰り返すことで、これまでの知識や理解が整理されそれぞれを結び付けることができた。また、それらの知識や理解をもとにして学習したことを地域の方や保護者に発信することで、ふるさとへの理解と誇り、愛着を深めることができた。さらに、平和や命についてもこれからの生き方につなげて、より深く考えることができた。敦賀の街づくりを考える活動を通して、児童は地域の現状を知るとともに、ふるさと敦賀の将来について考え、保護者や地域の方とも意見交換を行うことができた。

令和3年度に、赤崎小学校は他の2小学校とともに角鹿小中学校として統合される。統合後も児童が赤崎地区に誇りと愛着を持ち、地域の活動に積極的に関わっていくことができるように、今後のより良い方向性を地域の方と考えていかなければならない。

(様式 3)